

実心館合気道会 会員各位

令和7年1月

日本心身修学協会 実心館合気道会

代表 村山 育子

## 当会の解散につきまして

拝啓、冬晴れの空が美しい季節、ますますご健勝のことと存じます。

平素より当会の活動・運営に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の競技大会終了後より各道場・教室にてお知らせをさせていただいておりますので、既にご承知いただいている方もいらっしゃるかと存じますが、今年3月をもちまして実心館合気道会を解散させていただく事と致しました。

理由といたしましては、実心館合気道会会長であり私の父である村山實が昨年2月に他界したことが最も大きな要因でございます。

会長亡き後、私が事業を引き継いで「会長が築いてきた世界を守っていこう、維持していこう」と今日まで継続させていただいてまいりました。

その最中、昨年7月に開館当初からお世話になっていた武道具店さんが突如、倒産をされました。稽古には欠かせない道着・袴などの信頼していた仕入れ先を失い一時は途方にくれましたが、何とか価格を変えずに皆様にご提供できる環境を整えることが出来、現在に至ります。ですがその一方で、会長がこの世を去ってまだ間もないこの時にこのような事が起きたのは、「無理をしてはならない」という父からのメッセージかも知れない、とも思い至りました。

今後のことを改めて考え、昨年8月頃に私の意向を本部職員に伝えたくえで、今年3月での解散という事を決めさせていただきました。

出来るだけ皆様のご迷惑にならない時期にお伝えできればという思いの中、昨年末の競技大会に向け努力をされている会員の皆様の士気を下げてはいけないという考えから、このような時期での発表とさせていただきました。発表から解散までが短い期間となってしまいました。ご容赦いただきたく存じます。

今後の『実心館合気道』という流派につきましては山形県の『鷹心館道場』の竹田雅彦先生と、横浜馬車道・湘南藤沢・静岡葵の3つの道場を運営する『実心館地域道場』の竹田周作先生のお二人が、会長より直々に実心館合気道の普及を認められ認可を受けられております。

お二人はこれまで傘下道場としてご協力いただいていたまいりましたが、今後はそれぞれの道場でこれまで以上に実心館合氣道を正しく皆様に伝えていただくことをお願いし、その旨ご快諾いただきました。引き続き実心館合氣道の普及をお願いしてまいりたいと思いません。

また実心館合氣道会の本部職員3名につきましては実心館を卒業という形をとって、それぞれ新しい道に進んでいただくという事になりました。これは決して決別という事ではなく、実心館の教えを受けた3名が新しい環境でそれぞれの花を咲かせてくれることを期待しての事となります。

会長亡き後も変わらずに道に参集してくださる皆様のお姿が、外ならぬ私自身の励みになっておりました。こうして会長が40年以上かけて作り上げてきたものを、私の判断で手放してよいのだろうか、大変に悩みました。正直、今でもその葛藤は続いています。それでも私自身が何とか出来る形で、父の教えを守っていくのだと、心を新たに致しました。

港南台の本部道場は実心館の原点であり私の両親が苦勞をしながらも、強い思いを持ってつくった道場ですので、『実心館道場』として私が出来の限り守っていこうと思っております。ただ会長の旅立ちから今日まで立ち止まることなくやっていたまいりましたので、物理的な面でも、また気持ちの面でも、一旦整理をさせていただき時間を頂戴したいと思います。4月から少しの期間お休みを頂戴して、また皆さんをお迎えする準備をさせていただきたいと思えます。その間は港南台近郊で、実心館地域道場の竹田周作先生が稽古を出来る形を計画してくださっていますので、準備が出来次第お知らせをさせていただきたいと存じます。

皆様には、大変なご迷惑とご不安を与えてしまう事になるかと存じますが、こうした思いの中で決断したことであるという事をお汲み取りいただけましたら幸いです。

3月の解散までは実心館合氣道会として、一同力を合わせて精一杯努めてまいりますので、引き続きのご支援を頂戴いたしたく存じます。

また4月からは、皆様のお許しいただける環境において合氣道を学ぶ場を求めていただき、各先生方の道を応援していただけましたら尚有難く、望外の思いでございます。

ご理解賜れば有難く存じます。よろしくお願いいたします。

敬具